

水トラストニュース

2017.6 No.36



つぎの
おまかせ
1971.9.11

もくじ

「そうだね。そうだよね」 1
ボランティアと私 2
リンゴ畑の炭焼き日記 / 2017 青森 5
2017年度定期総会案内 7

「そうだね。そうだよね」

大隅 務

「NPOみたけ500万人の木曽川水トラスト(みたけ水トラスト)」理事長：由井滋神父が昨年10月30日に帰天されました。享年74歳でした。

神父は長野県川上村に生れ、お姉さんの影響を受けてキリスト教の信仰に入られ、沼津で身を寄せた教会の建設資金を募るためにフランスへ渡りました。そこでさまざまな人たちの姿を見たことで奉仕の道を確認しました。帰国後は市民運動への関わりを深め、鳴海・美濃加茂教会の司祭を歴任し、名古屋市東区布池教会の司祭として仕えられていました。

神父はカトリック名古屋教区司祭として、カトリック名古屋教区正義と平和委員会、滞日アジア労働者と共に生きる会「あるすの会」代表・移住労働者と連帯する全国ネットワーク共同代表・東海在日外国人支援ネットワーク代表・NPO移住者と連帯する全国ネットワーク顧問・「いこいの家(日雇い・ホームレスの昼間休憩所)」名誉会長・NPO岐阜ダルク(薬物依存者リハビリセンター)理事長・福信館(炊き出し活動・薬物依存者回復支援センター)後援・「働く人の家」理事長など、数えきれない活動にたずさわっておられました。

そして、1995年に「巨大産業廃棄物処分場計画から木曽川・500万人市民の水を守る会」結成の代表から、2000年10月に設立した「NPOみたけ500万人の木曽川水トラスト」の理事長を務めていただきました。

亡くなられた翌日31日通夜、午後7時に私が教会に着くと、もうすでに布池教会「大聖堂」の収容人員700席の会衆席は埋まり、立ったままの人もあります。衣に袈裟の私は最前列の席に案内されました。聖書朗読、説教、聖歌、由井神父の甥の神父からの感謝の言葉と続き二時間におよぶ通夜式でした。翌11月1日の葬儀後、大聖堂前で斎場へ向う車を見送る人たちの表情には神父に出会えたことの感謝の気持ちが表れていました。

見送った後、神父とともに外国人支援活動をされている方から「神父のオフィスにあるファイルの中であなたに関わる物があれば持ち帰ってください」と告げられました。部屋に入り、聖書や詩集などが並んでいる棚から「みたけ水トラスト」の資料をいただくことにしました。そして、私は神父の遺品中でどうしても見たいものがあります。それは川上村を離れる時に鞆にしよばせて大切にしている仏像です。その仏像に会いたいと思い、探しましたが、残念ながら見つけることができませんでした。

その仏像のことを神父自身から聞いた三十年ほど前に、「私たち神父は定期的に赴任があり教会を替わるが、今、私は鳴海教会の先輩神父の世話をしていますから暫くここにいます」と微笑ながら語った神父を憶えています。先輩神父の介護をする事を苦にせず、また、栄達を願うこともない神父の生き方に、私は宗教者として大切なことを学びました。

私が難民支援の中でさまざまな問題が生じた時は、いつも「困った時は由井神父に・・・」と相談する私に、神父は「そうだね。そうだよね」といつもやさしく言い、ともに考えて、問題に伝えてくださいました。

由井さん、ありがとうございました。

この度、由井滋さんが17年間務められた理事長のあとを継がさせていただくことになりました大隅務です。僧侶（西山浄土宗）・僧侶名（良務-りょうむ）・法応寺住職（海部郡蟹江町）・68歳です。どうぞ、よろしく願い申し上げます。



ボランティアと私

瀧井 史織

2回連載の1回目です

去年より参加の大阪の瀧井です。大阪と言っても南の端で、トンネルを抜ければ和歌山県、峠を越えれば奈良県です。ただ去年は、春に熊本地震、秋に岩手県岩泉町の水害や鳥取地震があり何回かお休みさせていただきました。

<チェーンソーとの出会い>

私が初めてチェーンソーと出会ったのは数年前の三重県紀宝町です。あの時、紀伊半島大水害が起こり和歌山県、奈良県、三重県に甚大な被害が在りました。各地のボラセンが閉所していく中、紀宝町は三重県の一番端に在り浅里地区は復旧が遅れていました。ボラ仲間たちと紀宝町に入り、そしたら名古屋の団体がボラバスで50人くらい入る事を知り、地区の人達、団体、そして私達と合流で活動しました。

その中でも時間が掛かったのは、谷沿いの斜面と高台の道路に囲まれた窪地状の田んぼに取り残された大量の流木の撤去でした。水トラストが倒しているような、それ以上の杉ヒノキの大樹が根こそぎ流れ着き、まるで巨大なマッチ箱をひっくり返したような、幾重にも折り重なり、山のように堆積していました。あれだけの量の大樹を軽々と持ち上げて運んでくるのだから、水の威力は凄いものです。

チェーンソーを持っている者は流木の山を解体し、一般のボランティアは手渡して木材を運び、木片を集め。中でも圧巻は、土手の上にクレーン車を設置し、地元の人が玉掛けをし、クレーンで引



き揚げ、そしてトラックの荷台で待機する私が大樹を端から順に積み込み、降ろしたらワイヤーを外し、クレーンのオペレーターのおっちゃんに合図をして。

述べ十日程かかりましたが、クレーンの設置場所が一カ所しか無かったため、最初は順調だった作業も進むにつれどんどんクレーンから遠くなって行き。特に田んぼの中程の空中に電線が張られてあった為、最後の方は釣りのリールの要領で地面に沿って大樹を手前まで引っ張ってきて、そこでワイヤーを掛け直し、電線を避けて吊り上げました。その時は、おっちゃんの見事なクレーン捌きに、周りで見守るボランティア全員から歓声と拍手でした。あの時は、本当に参加者全員の心がひとつに繋がったのを感じました。

災害現場ではチェーンソーの必要な場面が多々あります。ただ山林伐採と違い参加者の知識経験はバラバラで、一般ボラも交錯する中、チェーンソーを取り扱うにも細心の注意と、特にチームリーダーは安全に配慮した作業の段取りと適切な指示が必要です。

<なぜ災害ボランティアなのか>

若い時より私の趣味のひとつは海釣りでした。そんな中、ある日テレビを見ていたら座礁したナホトカ号から流出した重油で、何回も通った福井県越前海岸の海が真っ黒でした。我々の海、これは行かんなあかと車を走らせ、寒い時で、夜には北風が強く、着いた時は辺り一帯が石油の匂いで臭く、寝ていても何回も巡回の警察消防車両の赤色灯が車窓越しに輝き、異様な雰囲気ではなかなか寝付けませんでした。

朝には穏やかな天気となりましたが、海岸には多くのボランティアが居るものの何をどうしたら良いか分からず。隣の岐阜からの青年と話をしていたら、ちょうどハンドマイクを持ったオッチャンがやって来て、「みなさんおはようございます、今日はこの海岸を行います。」。そしたら食べ物に群がる蟻のように皆一斉に一カ所に集合して。その時思いました。いくら皆やる気があっても駄目なんだ、適切な指示あるいは指導者が必要なんだな～。でも次からは慣れたもので、朝に長靴をはき、安物のビニール合羽(通気性浸透性が無いもの)を着て、足元は隙間の無いようにガムテープでぐるぐるに、ゴム手袋を付けて出勤。

作業は、初めは勺とバケツで油をすくい、陸のドラム缶に貯める事でしたが、行くうちにペースト状になり、塊の固形物になって行き、すくうから拾う作業になり、最後は海岸の石をめぐり裏についた油をそぎ落とし、雑巾で拭きとる事になって行きました。

またこんな事もありました。国民の祝日に「海の日」が制定され、その日ばかりは日頃殺生を繰り返していた私も、釣竿は家に置いて、軍手と火箸、ゴミ袋を持って和歌山県周参見の海に行きました。その頃の海岸は、週休二日制でお金と暇はあるものの、でもやる事と心の無い釣り客が多く、あまりにももの汚さに嘆かわしいものがありました。空き缶を何袋も拾い集め、燃えるごみは広場の端で燃やし。夏の炎天下でしたから、暑い上に熱くて、しんどかったです。

最後に空き缶を近くの道の駅まで運び、自動販売機の横に置いたら、たまたま催物をしていたテントのおっちゃんに、「ゴミは建物の裏まで持って行け。」と怒られて。そして、また広場に帰り、次の空き缶の袋をトランクに詰め込んで道の駅まで。そしたら、今度はテントのおっちゃんが海岸掃除をしていると解ってくれはって、催物の記念タオルを持って、「何人、居てはるんですか〜。」って、そして裏まで空き缶を運んでくださって。嬉しかったです。

その時思いました、空き缶拾いなんて独りでするものじゃない。一人で千個拾うのは大変だけど、千人で各1個拾えば一瞬じゃないか。いやいや、それより千人がみな理解し合えて、初めから棄てなけりゃ、もっと良い社会になるじゃないか。

その頃、私は趣味で山歩きもしていました。初めはハイキング程度。でも距離も段々遠く、時間も朝から夕方まで。ただ一日一生懸命に歩いても、帰りは電車でほんの30分程なんですね。何か虚しさを感じる反面、別の意味で、生きるってことは無駄と解っていてもしなければならない事があるんじゃないかと思いました。毎朝時計に起こされて、慌てて出勤して、定刻に帰って食事して、いつものように寝る。それも人生なら、今日は何があってもあそこまで歩くぞ、目標を決めて、時間に急かされることも無く、やり切る生き方、心折れない人生もあっても良いんじゃないか。

そして熊野古道を歩いていたら、今度は紀伊半島大水害、歩いた地区が水没。和歌山は釣りで何回も行ってますので、道や、生活には困る事は無いはずでした。でも当初はあちらこちらで土砂崩壊、通行止めがあり、現地ではスーパーもみな水没でした。それまで東北地震はバスで連れて行ってもらいましたが、誰も居ない壊れた家の残骸の整理とか。海掃除にしても物が対象で、直接生活に困窮している人達の姿は見えてません。しかし、その時は、多くの死者も出て、未だ町のあちこちにゴミや残骸が残る中で生活する、そして生活しなければならない被災者の方の姿を見て、話を聞いて、直接自分の目で見て、匂いを嗅いで、この手で触れて、自分の判断で行動するようになったのはこの頃からです。今日の活動の原点です。

・ ・ 次号に続きます



リンゴ畑の炭焼き日記 / 2017 青森

櫛引高史



青森県西部の鱒ヶ沢町。日本海に面したこの町に今（こん）ファミリーファームはある。

いまこの農園を切り盛りしているのは、今道代さん、明彦さんご夫妻。道代さんのご両親の代からリンゴの無農薬栽培を手がけてきた。リンゴだけに限らず、今さんご夫妻は農薬や肥料に頼らない自然に寄り添った作物栽培を実践している。道代さんが若いころ白神山地の森のなかで気づいたという「自然は、持ち出さず、持ち込まず、ただ共生と循環を繰り返すだけ」という思いがそこにある。

農薬や肥料を使わないということは、つまり草や虫、病気の影響をたいへん受けやすく、また安定した収穫量を得るのも難しいということ。まったくとれない年もある。「肥料を多用する栽培は土を疲れさせ、生物のバランスを崩す。今ここ、私だけが良いということではいけない、50年後100年後の人も同じく良い環境で暮らせたら」と道代さんは願う。

僕が仕事（名古屋生活クラブ）で3年ほど前に初めて今さんのリンゴ畑を訪れたとき目の当たりにしたのは、病気になって枯れかけているリンゴの樹たちだった。1.3ヘクタールの広大なリンゴ畑に病気が広がっていた。先祖から受け継いできたリンゴ畑。古い樹は樹齢80年を超える。そのすべてを伐ると残念そうに話す道代さんが忘れられない。そして、すでに伐られて山積みとなったリンゴの樹の前に「このリンゴたちをもう一度生かしてあげたい」「箸に出来ないだろうか」「炭に焼いて畑に戻してあげられないだろうか」と話す道代さん。それを聞いて僕にはアイデアが沸いた。その少し前から参加していた「水トラスト」の皆さんに相談しよう、今さんのリンゴ畑と水トラストの森を結ぶ橋をかけよう、そのとき僕はそう思った。



翌月の水トラストの森（土曜の炭焼き）の場で皆さんに今さんの話をした。今さんと共にリンゴの樹の炭焼きを実現させたい、その思いに皆さんから「どんな形であれ力になりたい」という言葉を頂いた。そして、その日からリンゴの炭焼き計画が動き出した。

まず青森の今さんからリンゴの枝を送ってもらい、炭焼きのテストを行った。焼きあがったリンゴの炭は、節の多い特徴をそのまま

に、驚くほど美しい炭だった。続いてドラム缶を使った炭焼き窯の製作手順や実際の炭焼き工程のマニュアル制作(市村さん)を行い、これをもとに現地(青森)で今さんご夫妻による炭焼き窯の準備が進められた。そして雪どけの始まった2017年3月末、ついに今さんのリンゴ畑に2基の炭焼き窯が完成した。



今さんご夫妻と今道代さんのお父様

翌4月初旬、出来たばかりの窯で、僕は今さんご夫妻とともに炭焼きを行った。途中アクシデントもあったが、なんとかリンゴの炭が焼きあがった。後日道代さんから、「その炭を新たに植える苗木とともにリンゴ畑の土に入れる」と連絡があった。とても嬉しかった。最初の一步を踏み出せた気がした。

ひとりでは決して実現できないことも、思いが繋がれば実現出来るということに僕は実感した。リンゴの炭焼きはまだ始まったばかりだが、新たに生まれ変わっていくリンゴ畑で今後どう展開していくのが楽しみだ。今秋、二度目の炭焼きを計画している。

最後になりましたが、ご協力くださっている皆様に心から感謝いたします。



2017 年度定期総会のご案内

時：6月18日(日)16:00~

場所：名古屋市千種区今池3-12-3 丸美タウンマンション今池205号

(地下鉄今池下車：徒歩5分、JR千種下車：徒歩10分)

詳しくは下記連絡先(市村またはe-mail)にお問い合わせください。

議題：2016年度事業報告および決算報告

2017年度事業計画および予算

その他の報告



気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき：毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所：御嵩町・中公民館(名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ)

集合時間：午前10時(日曜日に日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい)

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

申し込み・お問い合わせ先：TEL & FAX 052-735-5453 (市村)

e-mail: mitake500npo@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

表紙の絵は早川しょう子さん作

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL & FAX 052-682-4737

郵便振替00800-9-64810

URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp